

学校教育目標	「自ら学び 人とかがわり 創り出す子」を育てます ○一人一人が、自分で課題を発見し追求し表現する学びを大切にする子を育てます(知・生きてはたらく知) ○進んで人とかがわりの中で、自分や友達を大切に、相手の立場や気持ちを思いやる子を育てます(徳・豊かな心) ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にするたくましい子を育てます(体・健やかな体) ○児童会活動や委員会活動を中心に、人のためになる活動を喜んで創り出し、進んで行動できる子を育てます(公・公共心と社会参画) ○友達・自然・地域などと積極的にとかがわりを通して、新しいものを創り出そうとする子を育てます(開・未来を拓く志)				
	創立 72 周年	学校長 山手 英樹	副校長 帯川 理加	2 学期制	一般学級: 31 個別支援学級: 7
学校概要	児童生徒数: 1025 人 主な関係校: 舞岡中学校、舞岡小学校、柏尾小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	舞岡中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
自分づくりに関する力	舞岡中学校 舞岡小学校 柏尾小学校	主体的な学びを通して、地域を愛し、命、心、夢を大切に成長する こども ○主体的・対話的な学びを積極的に展開し、小中が連携・協働して深い学びを推進する。 ○思いやりの心を育てる学びを学校の教育活動全体を通じた道徳教育で取り組み、小中合同授業研修等で連携して推進する。 ○夢を実現するための学びを、小中一貫すべての教育活動から推進する。

中期取組目標	○自ら考え、様々な人とかがわりを通して、創ることに本気になる教育活動に取り組む学校にします。 ・自ら考え、協働して問題解決に取り組む授業づくりを追究し、学力の向上につなげます。 ・一人一人に大切な存在としてとかがわり、互いを思い合い認め合う自尊感情を育てます。 ・人権教育・安全教育に取り組み、命の大切さを理解して、健やかな心と体を育てます。 ・児童会活動を推進して、よりよい学校生活のための活動を進んで創る力を育てます。 ・まちの人とのとかがわりを意識し、体験を通して、まちを愛する心を育てます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	「主体的に学び合い、とかがわり合いながら学び続ける子ども」を目指して、ICT機器を活用した情報活用能力を育成するよう授業研究を進める。①タブレット端末の活用について教職員と児童のスキルアップを図り、様々な学習の場で活用することで子どもたちが主体的に学べる授業展開を工夫していく。②目指す子どもの姿を明確にすることで、思考の流れを大切に、学んだことを価値づけたり次の「問い」や学びにつなげたりしていくようにする。
担当 重点研究部	
徳 豊かな心	①交流活動を通して互いに親しみをもち、協力し合って活動する姿を育てていくようにする。学年に応じたためあてを意識して活動できるように振り返りカードを活用していく。②道徳活動を充実させ、自尊感情を高め、人間関係を形成する力を育てていく。
担当 道徳部、特活部	
体 健やかな体	①主体的に学習に向かい、課題設定や解決の方法を自分たちでつくっていくことで、「わかる・できる」楽しい体育学習を目指す。 ②自分の生活を振り返りより健康的な生活を選び取っていきけるように、生活リズムを整えるとともに食に関する指導の充実を図る。引き続き「良い姿勢」の取り組みを続けていく。感染症予防による活動制限等が徐々に無くなるにつれてけがの件数が増えてきたので、けがの予防に取り組むことができるようにする。
担当 体育部、保健部	
公開 キャリア教育	①「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。②異学年の交流活動や代表委員会、委員会活動等を通して、高学年のリーダーシップや互いの立場を考えて行動する気持ちを育てる。また、その姿を下学年が見ることで、目指す姿をイメージできるようにしていく。
担当 特活部	
いじめへの対応	①いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめ防止対策委員会を中心とした組織で対応する。②「だれにとっても居心地のよい学校づくり」を軸とした委員会活動を行い、人権週間では、道徳や特活の時間を活用していじめについて考える。③日常的な児童指導において、社会のルール・マナーを守る気持ちや相手の気持ちを考えながら関わりを創っていく力を育てる。
担当 人権・福祉・児童指導部	
人材育成・組織運営(働き方)	①学校教育目標を提案内容にしっかりと位置づけ、どの教育活動に対しても全教職員の共通理解を図る。②授業時数を見直し、放課後の時間を充実させると共に、学習計画を見直しよりよい教材研究を行う。③チーム学年経営を多くの学年で実施し、いろいろな教員の目で指導に当たり、子どもの成長を多方面から見守る。
担当 教務部	
児童指導	①児童の情報や指導方針を職員間で共有し、未然防止・再発防止に努め、組織的に対応する。②幼保小中と連携し、よりよい教育環境の整備を図る。③安心・安全な学校生活のためのきまりを職員で共通理解するとともに、児童・保護者とも共有し、家庭と連携しながらルールを理解・順守する気持ちと力を育む。
担当 人権・福祉・児童指導部	
特別支援教育	①児童一人一人の困り感や課題に対して、専門機関や保護者とも、連携しながら合理的配慮や特別支援的な対応を行うことにより、児童が自信をもち安心してすごせるようにしていく。 ②研修やコンサルテーション等を行い、職員個々のスキルアップと共に、チームで対応する力を高めていく。
担当 特別支援教育コーディネーター	
危機管理	① 消防や警察等、外部機関と連携した出前教室や校内での安全朝会等を通して、登下校の安全や道路の安全な歩き方についての理解を深めるとともに、実践に対する意欲を高めることをねらう。② 浸水時避難訓練や不審者訓練等本校にとってより必要とされる訓練は何かを明確にして訓練を計画実施することで、児童や職員の防災や非常時における意識の向上に努める。③ 保護者と連携して引き取り下校訓練を行うことを通して、非常災害時における避難の仕方を理解することができるようにする。
担当 防災安全部	
地域連携	①学校運営協議会・地域学校協働本部等の機会を通して、地域とのより一層の連携を図っていく。②保護者・地域と連携し、生活科や社会科、総合の時間の学習等を通して、より地域のことを知ったり、学びを深めたりする。③人ととかがわりを育てるため、年齢も立場も違うさまざまな人との交流活動を行う。④ホームページや学校便りを充実させ、保護者や地域への発信を進めていく。
担当 教務部	

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自ら学び 人とかかわり 創り出す子」を育てます
 ○一人一人が、自分で課題を発見し追求し表現する学びを大切に育てます(知・生きてはたらく知)
 ○進んで人とかかわる中で、自分や友だちを大切に、相手の立場や気持ちを思いやる子を育てます(徳・豊かな心)
 ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすべくまじい子を育てます(体・健やかな体)
 ○児童会活動や委員会活動を中心に、人のためになる活動を喜んで創り出し、進んで行動できる子を育てます(公・公共心と社会参画)
 ○友達・自然・地域などと積極的にかかわることを通して、新しいものを創り出そうとする子を育てます(開・未来を拓く志)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力

具体化した資質・能力

感じたことを言葉にする力 伝える内容を明確にする力
 主体性・積極性 社会生活の中での協調性

中期取組目標

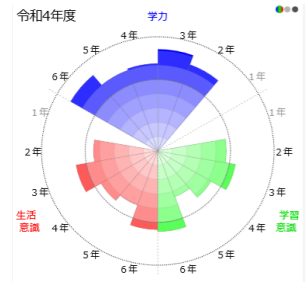
○自ら考え、様々な人とかかわることを通して、創ることに本気になる教育活動に取り組む学校にします。
 ・自ら考え、協働して問題解決に取り組む授業づくりを追究し、学力の向上につなげます。
 ・一人一人に大切な存在としてかかわり、互いを思い合い認め合う自尊感情を育てます。
 ・人権教育・安全教育に取り組む、命の大切さを理解して、健やかな心と体を育てます。
 ・児童会活動を推進して、よりよい学校生活のための活動を進んで創る力を育てます。
 ・まちの人とのかかわりを意識し、体験を通して、まちを愛する心を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	主体的に学び合い、かかわり合いながら学び続ける子どもを目指して、ICT機器を活用した情報活用能力を育成するよう授業研究を進める。①タブレット端末の活用について教職員と児童のスキルアップを図り、様々な学習の場で活用することで子どもたちが主体的に学べる授業展開を工夫していく。②目指す子どもの姿を明確にすることで、思考の流れを大切に、学んだことを価値づけたり次回の「問い」や学びにつなげたりしていくようにする。
担当	重点研究部

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童の実態
 ~横浜市学力・学習状況調査の結果より~
 ・全学年全教科において、横浜市の平均と比べて、平均正答率が上回っている。
 ・その反面、学習意識や生活意識が低い傾向があり、自己有用感が十分でない様子が見られる。



(2) これまでの学校の取り組み状況
 ・子どもが「問い」をもつために、日常生活の場から算数を用いて解決するような場面を設定したり、これまでの学習内容とのつながりを意識して学習に取り組んだりしてきた。

・その一方で、学習に対して受け身の姿勢の児童も多く、自分の考えを支える情報を効果的に選択する力、自分の考えを様々な方法を用いて表現する力、粘り強く取り組み主体的に学ぶ姿を伸ばしていく必要がある。

今年度の目標

「情報を利用して主体的に学び、かかわり合いながら学び続ける子どもを目指して」タブレット端末を活用し、情報を選択したり主体的に表現したりするよう授業研究を進める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・年間を通じて、タブレット端末を活用した授業実践を通して研究を深める。
 ・児童が正しい情報リテラシーを身に付けさせるようなオリエンテーションを行う。
 ・教職員が学習支援ソフトの利用方法について研修を積み、学習での効果的な利用方法について考える。
 ・児童が「やってみよう」「もっと調べてみたい」「友達により効果的に伝えたい」という思いを高められるような授業づくりを行っていく。
 ・学習のふり返りを積み重ね、児童一人一人が情報活用のよさを実感できるようにする。

下半期
 ・年間を通じて、タブレット端末を活用した授業実践を通して研究を深める。
 ・教職員が学習支援ソフトの利用方法について研修を積み、学習での効果的な利用方法について考える。
 ・児童が「やってみよう」「もっと調べてみたい」「友達により効果的に伝えたい」という思いを高められるような授業づくりを行っていく。
 ・学習のふり返りを積み重ね、児童一人一人が情報活用のよさを実感できるようにする。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①交流活動を通して互いに親しみを持ち、協力し合って活動する姿を育てていくようにする。学年に応じたためあてを意識して活動できるように振り返りカードを活用していく。②道徳活動を充実させ、自尊感情を高め、人間関係を形成する力を育てていく。
担当	道徳部、特活部

豊かな心に関わる本校の状況

・1000人を超える子どもたちが集まる学校であるため、豊かな人間関係の構築や、多様な集団の形成を図ることができる状況がある。
 ・交流活動によりペア学年と触れ合う場がある。また、6年生の姿を通してなりたいたい自分の姿を描き、理想に近づいていこうという願いをもつことができる。
 ・子どもたち一人一人に目を向けると、自尊感情が低かったり、集団の中で自分らしさを発揮することが苦手だったりする子もいる。
 ・集団の力を高めながら、個々の資質や能力を高め、ていよな教育が望まれる。

今年度の目標

子どもたちが自分や周りの人々を大切にできる、豊かな人間性と社会性を育むための教育を実現する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ①交流活動の充実
 ・1・6年、2・4年、3・5年の交流活動を行う「ペア学年交流」と、6年生が各クラスに行って交流する「仲よし交流」の2つを意図的に計画的に位置付けていく。
 ・活動の前に学年に応じたためあてを確認し、活動後に振り返りを行うことで、一人一人の資質・能力を向上させていくようにする。
 ②心に響く道徳教育の推進
 ・授業の中で、子ども同士が本音で語り合う姿を目指し、安心して何でも話せる学級づくりに力を入れる。
 ・一人一人のよさを引き出し、子どもたちが本来持っているよりよく生きようとする心を目覚めさせることができるように、子どもたちを励まし、勇気づけるかかわりをしていく。
 ・子ども達自身が自らの成長を実感できるように、学習記録を残していく。

下半期
 ①交流活動の充実
 ・1・6年、2・4年、3・5年の交流活動を行う「ペア学年交流」と、6年生が各クラスに行って交流する「仲よし交流」の2つを意図的に計画的に位置付けていく。
 ・活動の前に学年に応じたためあてを確認し、活動後に振り返りを行うことで、一人一人の資質・能力を向上させていくようにする。
 ②心に響く道徳教育の推進
 ・授業の中で、子ども同士が本音で語り合う場面を大事にし、思いを受け止め合う経験を積み重ねていく。
 ・一人一人のよさを引き出し、子どもたちが本来持っているよりよく生きようとする心を目覚めさせることができるように、子どもたちを励まし、勇気づけるかかわりをしていく。
 ・子ども達自身が自らの成長を実感できるように、学習記録を残していく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①主体的に学習に向かい、課題設定や解決の方法を自分たちでつくっていくことで、「わかる・できる」楽しい体育学習を目指す。 ②自分の生活を振り返りより健康的な生活を選び取っていくように、生活リズムを整え、食に関する指導の充実を図る。引き続き「良い姿勢」の取り組みを続けていく。感染症予防による活動制限等が徐々に無くなるにつれてけがの件数が増えてきたので、けがの予防に取り組むことができるようにする。
担当	体育部、保健部

健やかな体に関わる本校の状況

・市の平均に比べ、朝食の摂取率が高く、睡眠時間も上回っている。
 ・高学年の運動時間市の平均に比べてかなり低く、塾に通う子どもも多いことや放課後遊べる場所が少なく運動する機会が少ないことが考えられる。中・低学年の運動時間は、市の平均に比べ高い。全体的に野球、サッカー、バスケットボール、水泳などに積極的に取り組む児童も多い。
 ・過去3年間で「横浜市立学校の教育活動の再開」に関するガイドラインに基づき、体育学習を行ったことで、特に器械運動の経験が不足している。
 ・「姿勢体操」を継続して行ったことで姿勢に対して意識をする児童は増えてはきている、継続して姿勢を意識することが難しい。

今年度の目標

体を動かすことの喜びや楽しさを知り、生活の中に運動を取り入れようとする。規則正しい生活習慣を身につけようとする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ・多種多様な運動において基本的な動きを身に付けさせる中で、運動することの楽しさを味わわせる。
 ・子ども一人一人の個別最適な学びと協働的な学びを引き出すためにICT機器を効果的に活用し、見合いや教え合いを通した課題解決のできる授業展開の工夫を行う
 ・自分の生活を振り返り、健康課題を見付け、より健康的な生活を実践できるように、1年間を通して、保健委員会活動、学校保健委員会、保健集会を計画的に行う。

下半期
 ・多種多様な運動において基本的な動きを身に付けさせる中で、運動することの楽しさを味わわせる。
 ・子ども一人一人の個別最適な学びと協働的な学びを引き出すためにICT機器を効果的に活用し、見合いや教え合いを通した課題解決のできる授業展開の工夫を行う。
 ・エンジョイスports委員会を中心とした縄の取組により、クラス、個人での体力の向上を目指すことのできる機会の提供。また長縄集会では、集団で協力すること、体を動かすことのよさを感じられるようにする。
 ・運動会を、体育学習の発表の場とし、目標に向かって友だちと協力しながら活動できるようにする。また、目標達成や成功の喜びを味わうことができるようにする。
 ・自分の生活を振り返り、健康課題を見付け、より健康的な生活を実践できるように、1年間を通して、保健委員会活動、学校保健委員会、保健集会を計画的に行う。